

「個別シート」の作成

- 見直された「ねらい」から対象生徒の該当項目をチェックした後に

後期 個別の指導計画	単元・本時の個人目標	学習の流れ（個別プログラム）	配慮・手立て／補助具の工夫
個別の指導計画 年間・自活・日生 【作業学習】 ・関わりの少ない教師と ・作業を繰り返すことにより、見る力やけん引機を使ってゴミ拾 【自立活動】 ・けん引機を活用し、目的の場所まで移動したり、決まりを守って取り組むことができる。	トボトル置き場と止まり、ゴミ捨ての活動に取り組むことができる。 目標② ・普段関わりの少ない教師や他学年の生徒のやり取りをする ・作業を繰り返し行うことにより、見る力や手指機能を向上させる。 目標③ ・言葉がけやストップカードの提示により、棒スイッチから手を離すことができる。 目標④ ・同じ活動に取り組む生徒を意識して、自らラベルはがしの活動に取り組むことができる。 ・ボトルに移る「か」という教師の、声を出して返事をすることができる。	1 始めの挨拶で、MTと一緒に集団の前で発声する。 2 出席確認で、棒スイッチを受 3 棒スイッチは、視認してから押すことに距離を調整する。 4 棒スイッチでは、事前に止まるべ 5 棒スイッチから手を離すには、賞賛するよう 6 棒スイッチは、視認してから押すことに距離を調整する。 7 棒スイッチでは、事前に止まるべ 8 棒スイッチから手を離すには、賞賛するよう 9 棒スイッチは、視認してから押すことに距離を調整する。	【個別の配慮・手立て】 ・棒スイッチは、視認してから押すことに距離を調整する。 ・棒スイッチでは、事前に止まるべ ・棒スイッチから手を離すには、賞賛するよう 【補助具の工夫】 ・カード類は、つかみやすいように厚みを持たせるようにする。  ・けん引機のスイッチは、走行中でも押しやすいように棒スイッチを用いる。 

**目標と活動
の整合性**

目標の階層性

学習集団の「ねらい」を個へ反映させる

重要

「個と集団をすり合わせた 授業づくり」の実際

「単元構成」と学習機会の拡大

第Ⅰ期

自分に合う作業内容・方法は？

自分の仕事をしよう

第Ⅱ期

「自分でできる」を実感するための補助具の開発 など

時間いっぱい仕事をしよう

第Ⅲ期

前・後半で2種類の作業を行う
学年以外のSTとも／友達を意識
できるように… など

グループで仕事をしよう

スパイラル状に高まり・広がる「単元構成」

